平成８年度技術開発実施報告書

様式２－２

No.2

課題名	人工林の適切な保育・管理施業の試験				
課　題　区　分	自　主　課　題	開発個所	楠見国有林 ２３７へ林小班	開発期間	平成８年度 ～ 平成１２年度

当年度別実施計画	当年度実施報告
６，実施結果	６，実施結果 太陽光の受光量と生育関係では、６月～１２月まで相対照度７０程度（上長生長に最も優れているとされる）の状態を維持できる林分では、側圧も加味して造林木の上長生長が期待されるところであるが、当該試験地においては、造林木の上長生長が対象区に比べ現時点では優れている。このことから、翌年の夏には雑灌木と造林木の適度の競合状態が生まれ、結果として造林木の上長生長が促進されると推察される。現時点では、樹型も均整がとれており問題ない。 作業面においては、造林木の切損もなく、作業能率も上がっており寒風害等の被害も見られなかった。また、野兎害が一部発生しているが、調査区以外の通常期下刈区でも同様の被害が発生しており、特に差異は認められなかった。

状 況 記 録 写 真

（様式６）

区分	自主

森林技術センター

平成８年度237ヘ冬下刈実行前

状 況 記 録 写 真

（様式６）

区分	自主

森林技術センター

平成8年度237ヘ冬下刈実行後

平成９年度技術開発実施報告書

様式２－２

No.1

課題名	人工林の適切な保育・管理施業の試験				
課　題　区　分	自　主　課　題	開発個所	楠見国有林 ２３７へ林小班	開発期間	平成８年度 ～ 平成１２年度

当年度別実施計画	当年度実施報告
１，生長量調査	１，生長量調査 ヒノキ１，５００本区 冬季下刈区調査プロット 根元径　２．１cm 樹高１３０cm 枝張３１cm 通常下刈区調査プロット 根元径　２．２cm 樹高１２９cm 枝張３３cm
２，有用樹発生調査	２，有用樹発生調査 スギ１，５００本区にプロット設定(20m×20m) 特定樹種：ヤマザクラ・ヤマグワ・イチイガシ クスノキ・ウラジロガシ・シラカシ 各樹種とも生育良好である
３，功程調査	３，功程調査 冬季下刈区（面積１．００㌶） ﾌﾟﾛｯﾄ内功程5.4人/㌶ 延雇用量8.875人 通常下刈区 ﾌﾟﾛｯﾄ内功程5.9人/㌶ （通常下刈区ﾌﾟﾛｯﾄ内功程は、ﾋﾉｷ1.500本使用）
４，実施結果	４，実施結果 冬下刈りは、造林木の切損が少なくつる上がりも少ない。また、枯損も少なく生長も良好である。 更に、雑灌木との競合で根曲がりも少ない。 しかし、雑灌木が通常下刈りに比べ堅い。 作業面においては、蜂・マムシ等の被害が無く労働強度も軽減出来る。ただし、カラスザンショウ等の刺のある雑灌木の刈り払いには注意が必要で、保護メガネを着用すべきである。

状 況 記 録 写 真

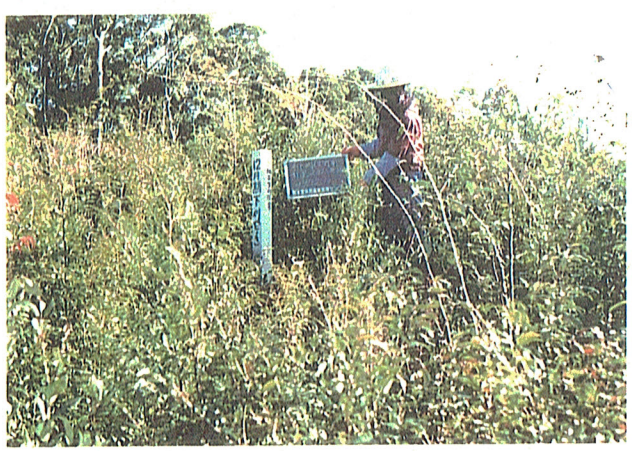
区分	自主

森林技術センター

（様式６）

平成9年度冬下刈実行前

平成9年度冬下刈実行中



平成9年度冬下刈実行前

平成9年度冬下刈実行中

状況記録写真

区分	自主

森林技術センター

（様式６）

平成9年度237へ冬下刈実行前

平成9年度237へ冬下刈実行前

平成１０年度技術開発実施報告書

様式２－２

No.1

課題名	人工林の適切な保育・管理施業の試験				
課題区分	自主課題	開発個所	楠見国有林 ２３７へ林小班	開発期間	平成８年度 ～ 平成１２年度

当年度別実施計画	当年度実施報告
１，生長量調査	１，生長量調査 ヒノキ１，５００本区 冬季下刈区調査プロット 根元径 ２．８cm 樹高１７２cm 枝張４４cm 通常下刈区調査プロット 根元径 ２．９cm 樹高１７７cm 枝張４３cm
２，有用樹発生調査	２，有用樹発生調査 スギ１，５００本区にプロット設定(20m×20m) 特定樹種：ヤマザクラ・ヤマグワ・イチイガシ クスノキ・ウラジロガシ・シラカシ 各樹種とも生育良好である
３，功程調査	３，功程調査 冬季下刈区（面積１．００㌶） ﾌﾟﾛｯﾄ内功程5.0人/㌶ 延雇用量9.500人 通常下刈区 ﾌﾟﾛｯﾄ内功程5.9人/㌶ （通常下刈区ﾌﾟﾛｯﾄ内功程は、ﾋﾉｷ1.500本使用）
４，実施結果	４，実施結果 冬下刈りは、造林木の切損が少なくつる上がりも少ない。枯損も少なく生長も良好である。雑灌木との競合で根曲がりも少ない。 しかし、雑灌木が通常下刈りに比べ堅い。 作業面においては、最大の利点は従事者の疲労度が軽減されることであるが、蜂・マムシ等の被害もない。ただし、カラスザンショウ等の刺のある雑灌木の刈り払いには注意が必要で、保護メガネを着用すべきである。（落葉しており切断後の倒れが速い）